

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	通信会社（社員）	・携帯電話の新サービスの効果が表れる。
		テーマパーク（職員）	・春になって個人客の動きが良くなれば、前年からスタートした新企画の効果と相まって来客数の増加が期待できる。
	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・酒の販売を始めたため売上が増加する。
		家電量販店（経営者）	・デジタル家電や、白物家電の中でも食器洗い機などのぜいたく品が好調なため、引き続き期待できる。
		乗用車販売店（経営者）	・客からの引き合い件数がわずかながら増加している。
		乗用車販売店（総務担当）	・2月は新型車の谷間であるが、6月ごろには1,500CCクラスの若者向け新型車が登場するため期待できる。
		乗用車販売店（経理担当）	・新型車の客への配車が順調に推移すれば、販売状況が良くなる。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・天候が良くなり薄着になるにつれ、制汗剤など衣替え需要が高まり、また健康志向商品などの新しい需要の取り込みにより売上が伸びる。
	変わらない	パチンコ店（店員）	・1人当たりの客単価が少しずつ上向いている。
		百貨店（売場主任）	・春物を少し前倒して店頭に品ぞろえしているが、特にジャケット、コートなどアウターの動きがやや鈍い。色の明るい単品のニットやセーター類がインナーとして活発に動いているが、やはり大型商材の動きが鈍いことが気になる。
		スーパー（店長）	・牛肉、鶏肉の消費が落ち込んでおり、特に牛肉は金額が大きいいため、豚肉へ移行してもその分はカバーできない。
		スーパー（店長）	・4月からの消費税の総額表示は消費者が理解するまでに時間がかかる。
		スーパー（店長）	・4月からの消費税の総額表示により、消費者が買い控える懸念がある。一方、小売側は売価変更により実質的な値下げをするため、消費者の購買意欲を若干高める期待感もある。
		スーパー（店長）	・来客数は昨年10月以降、前年の105%前後で推移しており、今後は引き続き安定した動きとなる。社会催事では衣料部門のフォーマルやフレッシュズで苦戦が予想される。
		スーパー（総務担当）	・客が必要な物しか買わないという傾向は今後も続く。客単価もほぼ変わらず、販売量は現状のままで推移する。
		スーパー（営業担当）	・4月から消費税の総額表示がスタートするが、客に売価ラインや値ごろ感がどう映るかが問題である。一部では値上げと受け取られ、消費が一時的に鈍る恐れがある。
		住関連専門店（店員）	・消耗品に近い買い回り品の買上客数がなかなか回復しないため、店内の雰囲気盛り上がりがない。
		観光型旅館（スタッフ）	・2、3月までは予約保有数が前年を上回っているが、4月以降は前年を下回る月も出ており、不透明である。また、大きな団体の動きも弱い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・4月にゲストハウス施設がオープンするため、4月の婚礼受注状況は前年を下回っているが、宿泊部門と一般宴会が増加する見込みで、全体では前年並みとなる。
		タクシー運転手	・しばらくは客が増えない中で客の奪い合いが続く。運転代行業者のタクシーへの参入が続き、タクシーも代行へ攻勢をかけている。
美容室（経営者）		・メーカーやディーラーの営業マンの情報では出荷量が落ち込んでいる。末端美容室の売上総額も今後2、3か月間は回復の見込みが立たない。	
設計事務所（職員）		・投資意欲を促進する工夫や努力が各社で行われているが、急速に回復するとは思えない。	
住宅販売会社（従業員）	・例年2月は契約数が増加する時期であるが、今年は増加の気配があまり感じられない。		
やや悪くなる	商店街（代表者）	・当店の周辺の道路、アーケード、駅構内などの工事が一挙に行われており、平成17年の完成まで売上は徐々にダウンする。	
	百貨店（営業担当）	・女性のヤングファッションの買上客数が今月も引き続き減少している。また、3か月先の大きなファッショントレンドやヒットアイテムがまだ見つからない。	
	百貨店（営業担当）	・ファッションでは素材や色、デザインなど多少のヒットアイテムが見え始めているが、年金、消費税の総額表示の問題など、全般的に環境は厳しい。	

		百貨店（営業担当）	・一部の定価販売商品では既に消費税の税込み表示を行っているが、客への影響はみられない。ただし、4月から本格的に総額表示が導入されると、セール、催事会場では値ごろ感が客に伝わりにくいため、苦戦が予想される。
		コンビニ（経営者）	・競合店の出店により、古い店舗の当店では売上の厳しい状態がまだまだ続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・来場者数が前年と比較して少しずつ減少しているため、来月以降のばん回は考えにくい。
		観光型旅館（経営者）	・4月から実施される消費税の総額表示によって、宿泊単価の下落が予想される。
		テーマパーク（職員）	・2、3か月先のグループ、団体客の予約数を前年と比較すると1割以上の減少となっている。参議院選挙の影響もあり、6月を中心に団体客の動きが鈍くなる。
	悪くなる	一般小売店〔鮮魚〕（店長）	・4月から消費税の総額表示が義務づけられるため、表示価格を見た客に値上げと映る可能性があり、しばらくは消費が低迷する。販売する側にとっても価格設定が難しく、他店との競争により利益の圧迫要因となる。
企業 動向 関連	良くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・設備投資の先行指標である工作機械の受注について、昨年、一昨年の納期は6～8か月であったが、最近は1～2か月の短納期で推移している。
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経理担当）	・特殊要因がもしもないが、当社の受注は好調で、夏場にかけて数量的には倍増する計画も出ている。客先の様子からも景気は徐々に上向いている。
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	・当業界では前年対比で95～98%と、リテール商品が若干減少している。3月からの新商品の棚替え導入時に、既存商品に代わる付加価値商材が登場しない限り、現状のままで推移する。
		繊維工業（経営者）	・受注状況や客の様子をみても、もうひとつ盛り上がりを感じられない。
		繊維工業（経営者）	・安価であれば売れた時代が変わり、消費者ニーズに適した物でなければ売れなくなっている。多少高くても、売れる商品は売れる。
		金属製品製造業（経営者）	・今後の受注内容を見ると、代わり映えがしない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・仕事量が全体に減少している中で、3か月先には現在季節的に若干増えている分も無くなり、本当に悪くなる恐れもある。眼鏡業界全体としては新しいプラス材料が見えていないため、少なくともこのままの状態が続けば、まだ良い方である。
		通信業（営業担当）	・提案型営業では自治体や公共関係は好調であり、製造業もまずまずである。しかし、流通は若干低調な状態が続いている。
		司法書士	・現在取り扱っている不動産取引の案件は債務整理のためのものが非常に多い。
	やや悪くなる	-	-
悪くなる	建設業（総務担当）	・鋼材価格が上昇しているが、工事価格に転嫁できない部分が発生するため、採算が更に悪化する懸念がある。	
雇用 関連	良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告の件数は都会地で増加しているが、地元でも前年比2割増で推移している。
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人に関して前向きな企業が増加している。
		職業安定所（職員）	・求職者の減少傾向が顕著である。
		民間職業紹介機関（経営者）	・大手家電メーカーが地元で大型工場を建設するため、多くの雇用が期待できる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・最近の求人数に大きな変化がない。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率の状況を見ると、全体に占める常用の割合は前年同月比で減少している。一方、パートの比率はここ数か月間連続して増加しており、企業側では景気の先行き不透明感からパート雇用に頼っている。
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	-	-	